WE'RE YOUNG-JIN

長岡市立中央図書館ヤングアダルト News
Vol.53　2018.11

おとなの伝記

小学生の頃、野口英世やエジソン、ヘレンケラーなどの偉人の伝記を読んだことはありますか。今回ヤンジンでは、少し大人になったみなさんに、立派なエピソードだけではない、生身の人間の生き方が伝わる作品の数々をご紹介します。伝記に対して持っていたイメージが変わるかもしれませんよ。

『武士の娘　新訳』　杉本 鉞子／著
小坂 恵理／訳　PHP エディターズ・グループ

江戸から明治に変わる激動の時代、越後長岡に杉本鉞子（えつこ）というひとりの女性がいました。結婚してアメリカに渡り、当時の長岡の風習や、身分制度が一変してしまった武士の暮らしぶりなどを、英語で書いた本がベストセラーとなりました。日本と西洋の架け橋となった鉞子の生涯を知ることができる、貴重な自伝的小説です。

VOICE

図書館でボランティア活動をしてくれた中高生のみなさんに、オススメの一冊を紹介していただきました！
（編集にあたり、趣旨は変えずに一部修正しています。）

『掟上今日子の備忘録』　西尾 維新／著　講談社

一日で記憶を失う掟上今日子（おきてがみきょうこ）が、難事件を華麗に解決していくところが最高にカッコいいです。彼女の考えかたや心情にも、ぜひ注目して読んでみてください。シリーズが 10 巻出ています。　（ペンネーム：M・M）

『予知夢がくる！』　東 多江子／作　講談社

主人公は、鈴木鈴という女の子。人付き合いは苦手だけど、予知夢を見ることができ、危険や問題を解決していくところがすごいと思います。私も新しい仲間との接し方に悩んだ時期もあったので、とても共感できました。　（ペンネーム：Y・N）

●ご感想、本の紹介など、下記のメールアドレスにお寄せください。
メール投稿の際は件名にＹＯＵＮＧ＝ＪＩＮ、本文に年齢・ペンネームを明記してください。
●本の表紙掲載については、出版社の許諾を得ています。
編集・発行　長岡市立中央図書館（0258-32-0658）

スマホサイト→

図書館ＨＰ　https://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp
図書館メールアドレス　lib@city.nagaoka.niigata.jp

←携帯サイト

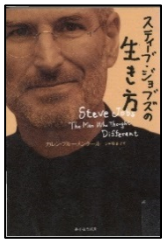
『前進力』　三國　清三／著　講談社

日本を代表するフレンチシェフである著者。料理人を目指した理由にまず驚かされますが、なにより、思い立ったら「コレだ！」と次々に突き進む行動力に脱帽です。一流になる人には、並々ならぬ度胸と努力があると感ぜずにはいられません。一歩踏み出すことをためらっているあなたに、ぜひ読んでもらいたい１冊です。

『10 人のパリジェンヌ』　山本 ゆりこ／著
アトランさやか／著　毎日新聞社

パリで暮らす女性、パリで仕事をする女性の生い立ちから現在の暮らしぶりまでを紹介しています。この本は有名人の伝記ではありませんが、毎日を生き生きと過ごす彼女たちの姿はとても魅力的で、これまでどんなふうに過ごしてきたのか興味深く読むことができます。素敵な大人の女性になりたい人にオススメ！

『スティーブ・ジョブズの生き方』
カレン・ブルーメンタール／著　渡邉 了介／訳
あすなろ書房



ｉＰｈｏｎｅやｉＰｏｄなどの製品を生み出したのがスティーブ・ジョブズです。皆さんの中にも、利用している人がいるかもしれませんね。他にも、ｉＴｕｎｅｓストアを生み出し、音楽の世界にも影響を与えました。資金を出して育てたピクサー社は、「トイ・ストーリー」など大ヒット映画を作りました。世界中の人々の生活に影響を与えたジョブズの生き方とは、どのようなものだったのでしょう。

『ゲゲゲの人生わが道を行く』
水木　しげる／著　日本放送出版協会

「ゲゲゲの鬼太郎」でおなじみ、漫画家水木しげるの自伝。激戦地での戦争体験や、火の玉のように働いたという貸本漫画家生活…。生きるか死ぬかの壮絶な前半生とは裏腹に「なまけ者になりなさい」が口癖の、明るくユーモアあふれる人物です。「出会って５日で結婚を決めた」「かつて妖怪はいないと思った時期があった」など、数々の驚きのエピソードが満載です。

『この自伝・評伝がすごい！』
成毛　眞／著　ＫＡＤＯＫＡＷＡ

サッカー選手、経営者、タレント、ノーベル賞科学者、総理、将軍等々、時代もジャンルもバラバラな 20 人。彼らの自伝や評伝を、著者独自の解釈で紹介する本です。自伝というと、とかく硬い内容を想像しがちですが、こんなに楽しい自伝があったなんて！この本に紹介されている自伝・評伝は図書館にもあるので、ぜひ合わせて読んでみて下さい。

『学校へ行けなかった私が「あの花」「ここさけ」を書くまで』　岡田　麿里／著　文藝春秋

アニメ「あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。」などを手掛けた脚本家が、不登校だった小中高校時代の複雑な心の内を赤裸々に明かしています。高校教師から「得意分野」として見出された読書感想文のやりとりから、外の世界へ旅立つきっかけをつかんだ彼女。不器用ながらもマイペースに自分の世界を作ってきた半生が綴られています。